

教員がやりがいを感じられる教育現場を 子どもたちのために業務を見直す

伊藤 大輔 (市民フォーラム)



問

国は部活動指導時間の細かな指針を示し、市でも事務作業の見直しや部活動指導員を導入することですが、一律的な対応では無理が生じます。同じ時間を使うにしても、楽しさ、やりがいを感じられれば負担感は減少すると考えます。子どもたちのために教員がやりがいを持って働ける環境をつくるためにも、単なる時間削減の議論ではなく、実態に即した中身の改革をすべきではないでしょうか。

答

部活動指導の本市独自のガイドラインは、30年度末をめどに作成する予定です。教員の働き方改革については、子どものためになると感じるのと、何も考えないでやるのでは負担感が大きく違うと理解しています。今後は、量的な面だけではなく、目的や意義、価値を踏まえ、何のための業務なのか、何のための教育活動なのかを指導していくなど、両面を見つめながら、実態に即した改革となるよう取り組んでいきます。

子どもの受動喫煙対策に、大きな一歩を 関係部署と連携し、しっかり取り組んでいく

安東 太郎 (たちかわ自民党・安進会)



問

市では、立川市安全で快適な生活環境を確保するための喫煙制限条例に基づき、分煙による受動喫煙防止に取り組んでいます。平成30年4月から東京都子どもを受動喫煙から守る条例が施行されますが、子どもの受動喫煙対策に、どう取り組んでいくのでしょうか。立川市医師会からも、子どもの受動喫煙防止などを求める要望書が出ていると聞いています。さらに一歩進んだ取り組みが必要ではないでしょうか。

答

本市では、喫煙制限条例に基づき、分煙による吸う人と吸わない人の共存という形で、受動喫煙対策を進めてきました。都の条例施行にあわせ、チラシなどが送られてきており、保育園などに配布し周知を図ります。また一般向けの健康教育の中で、受動喫煙による健康への影響や子どもを受動喫煙から守るという観点もあわせて周知していきたい。国や都の状況を注視し、関係部署とも連携し、しっかりと取り組んでいきます。

特殊詐欺被害に遭わないよう、対策強化を 引き続き周知・啓発や声かけを行う

大石 ふみお (市民フォーラム)



問

見守りメールなどのさまざまな対策にもかかわらず、特殊詐欺被害の件数や金額がふえています。これまでとは異なる新たな対策をとるなど、さらに強化すべきです。現在行っている自動通話録音機器設置を加速して実施していくことはもちろんですが、被害の多い70歳代女性を対象とした、個別の対策が必要ではないでしょうか。また、被害防止には、声をかけることが大切です。職員の皆さんにも目配りや気配りをお願いしたい。

答

さまざまな特殊詐欺対策を講じていますが、昨年は直接的には被害防止に結びつきませんでした。市民へ周知を続け、自動通話録音機器などの配布も継続していきたい。家庭にいたることの多い高齢の女性がターゲットとなっており、今後も高齢者の集いなどで、直接顔を見ての周知・啓発を頻繁に行うことで被害防止につながるとともに、自治会や民生委員の方には、そういった方々への声かけもお願いしていきたい。

車道の自転車マークの周知を リーフレットなどで周知していきたい

梅田 春生 (市民フォーラム)



問

自転車走行環境整備事業について伺います。道路にある自転車のマークは、ナビマークやナビライン、自転車走行レーンなど数種類あり非常にわかりにくいのですが、地域の方々へ説明は行ったのでしょうか。説明が十分行われず、家の前の道路にこういったマークがある状況になったとすると、非常に危険です。市民から問い合わせがあったのか、また事故は起きていないのでしょうか。市民に十分な説明をしていただきたい。

答

直接、地域で説明会は行っていないませんが、事故の事例は聞いていません。歩行者の安全のため、自転車は車道を走るという考えに基づき、道路上の表示を進めています。子どもや高齢者の方などは、歩道も通行できることについて、市民の理解が必要と考えており、今後も十分周知啓発していきます。またリーフレットなどの配布のほか、交通安全講習などでも、立川警察署と連携して安全な自転車走行について周知していきたい。



自転車走行レーン内のナビマーク

用語解説 「認知症サポーター」とは

認知症について正しく理解し、地域で認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者。
「認知症サポーター養成講座」を受講した方になる。



高松学童保育所

防災兼用井戸の井戸水について

飲料水としての利用について、検討したい

須崎 八朗 (たちかわ自民党・安進会)



問

都市農地保全支援プロジェクト事業について伺います。防災兼用井戸の整備は、個人ですでに井戸を掘った方も対象となるのか、またその周知方法をお示しください。農家の方からは災害時には農地を避難所として、井戸水も提供しますとの声もあり、予算をかけて実施するのであれば、飲料水として使うことも見据えて事業を進め、水質検査をしていただきたい。通常より深く掘っている井戸なので、飲料水に使えると考えます。

答

農協の支部回覧で周知し、市内の農家50軒に、補助の要望について調査を行いました。この防災兼用の井戸整備については、都と市で補助を行う事業ですが、個人ですでに井戸の整備をされた方も対象となります。現在、防災兼用井戸の井戸水は、生活用水として位置づけられており、飲料水として利用すると、地域防災計画での位置づけや、飲料水としての水質の担保なども含めて課題がありますが、検討したい。

早急に西砂地域の雨水対策を

平成30年度早期に予算化し、対応

門倉 正子 (公明党)



問

西砂町二丁目の雨水処理は、平成29年度の実施設設計で判明した課題を踏まえ、庁内関係部署で方向性について検討し、平成30年度中に対策を行うとのことでしたが、平成30年度当初予算に計上されていません。いつまでに、どのような対策を行うのでしょうか。また、雨水計画管が未整備の他の西砂地域についても、浸水や道路冠水で困っている方に寄り添って、組織を横断した対応を含め、雨水対策を計画的に進めていただきたい。

答

西砂町二丁目の雨水対策については、平成29年度に実施設計を行いました。道路の幅員が狭く、埋設物が多いことなどで、千100ミリの雨水管の埋設は困難であると判断しました。現在、計画管以外の方法で、雨水を既設の雨水幹線等へ接続する方策を関係部署で調整しています。工事の設計を進め、平成30年度の早い段階で補正予算を計上し、雨水対策が図れるようにしたい。その他の西砂地域も、雨水対策の検討を進めます。

学童保育所指導員に裁量権を 安全を確保したうえで、指導員の力を生かしていく

谷山 きょう子 (立川・生活者ネットワーク)



問

市直営の学童保育所の指導員がルーチンワークをこなすだけでなく、子ども主体のスケジュールにない現状があります。直営としての軸足を持ち、指導員の自由裁量の部分がもっと大きくなってよいのではないかと。市の子ども施策について、直営、指定管理や民間委託の指導員も共通理解をしていること、また、直営、指定管理、民間委託と運営形態が異なるとしても、保育の基準や方針が同質であることが望ましいのではないかと。

答

学童保育所は、安全が確保できるのであれば、指導員の力を生かし、その地域や子どもに合った保育をしています。本市の施策の趣旨について、直営、指定管理、民間委託の全指導員が出席する全体会議で周知を行っています。さらにわかりやすく伝えていくなどし、共通理解となるよう努めます。また、運営の基本となるマニュアルに沿って保育を行い、保育の質を保ちつつ、それぞれの保育所に合った保育を行ってまいります。

発電機と投光器はセットで避難所に配備を 財政面等も考慮し、検討していきたい

瀬 順弘 (公明党)



問

大規模改修が終了した小学校の避難所に、従来の0.3キロワットのポータブル発電機に加え、発電量が大きな3.1キロワットの発電機が2台、5.5キロワットのものが2台、配備されましたが、燃料も配備されるのでしょうか。また、発電機はどういった目的で使用されるのでしょうか。発電機の配備に合わせて、投光器をセットで配備すべきと考えますが、見解を伺います。急な災害に対応するためにも、早急に配備すべきです。

答

大規模改修が終了した六小、八小、九小に新たに導入した発電機を含め、計5台が避難所に配備されました。平成30年度は、ディーゼル発電機用の軽油缶とガソリン発電機用のガソリン缶を配備する予定です。発電機は、避難所の明かり対策を目的に導入しましたが、現在投光器は各校に1台の配備となっています。現在の投光器より遠くまで明るいLED式投光器もあり、財政面などを考慮しながら、配備について検討していきたい。